



○ ケンゴシ (牽牛子)

語源

アサガオ属 *Pharbitis* の由来は定かではないが、一説にはドイツ語 Farbe ファルベ「色」に由来すると言われている(アサガオが様々な色の花を咲かせるため)。種小名 *nil* は、アラビア語で「藍色(あいいろ)の」の意。和名のアサガオは、「朝に咲く花」の意。牽牛子は、アサガオを意味する「牽牛」の種子のこと。その名の由来としては、古代中国においてアサガオの種子は牛と取引されるほど高価な薬だったとする説、謝礼として牛を牽(ひ)いて来たという逸話に由来する説、アサガオの花を牛車に積んで売り歩いたという説など、様々な説がある。

基原

Pharbitis nil Choisy アサガオ
ヒルガオ科 つる性1年生草本

アサガオは、日本の植物図鑑では *Pharbitis nil* となっているが、海外の文献では主に、*Ipomoea nil* である。サツマイモ属 *Ipomoea* は、数百の種を含む大きな属であるが、スイスの植物学者ショアジー(Jacques Denys Choisy、1799-1859)が、1833年にサツマイモ属からアサガオ属 *Pharbitis* を独立させた。日本ではその分類が広く認められたが、海外ではこの見解は採用されておらず、現在分類学上は *Ipomoea nil* が用いられる。しかし園芸では慣習的に、*Pharbitis nil* が使用される。



薬用部分

種子

種皮の色によって区別され、白いものを白丑(はくちゅう)・白牽牛子、黒いものを黒丑(こくちゅう)・黒牽牛子という。両者の効能は変わらないが、古くは白種子を尊んだ。今日では黒種子の方がよく用いられている。

産地

中国、韓国、日本

主な成分

樹脂配糖体： ファルピチン
糖： グルコース、スクロースなど
脂肪油： オレイン酸、ステアリン酸

主な薬効

瀉下、利尿

代表的処方

緩下薬として、通例粉末を配合剤として用いる。また、分量を増せば峻下薬となる。

【八味疝気方】

ハチミセンキホウ

体力中等度以上で、冷えがあるものの次の諸症： 下腹部の痛み、腰痛、こむら返り、月経痛
(処方内容) 桂皮/木通/延胡索/桃仁/烏薬/牽牛子/大黄/牡丹皮

【舟車丸】

シュウシャガン

瀉下作用の他に強い利尿作用があり、水腫に用いる。

(処方内容) 牽牛子/甘遂/芫花/大戟/大黄/青皮/陳皮/木香/檳榔子/軽粉

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「漢方のくすりの事典」「漢薬の臨床応用」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp